

金木犀

松下幹生

毎朝歩く 散歩道
いつもと違う 漂う香り
ふと見上げれば 金木犀が
可憐な花を 咲かせてた
辺りに笑みを 振り撒くような
ほんのり香る 秋の華

通りゆく人 それぞれに
香りを感じ 見上げる樹(き)には
今年も季節 忘れもせずに
ちりばめられた 金の粒
道行く人に 香りのシャワー
幸せ降らす 秋の華

季節も過ぎて はらはらと
花を散らせて 降り積もる花
道に黄金の ジュウタン広げ
街を黄色に 水玉の
模様を描く 名残りを遺し
静かに消える 秋の華